

平成30年 4月19日

上ノ国町議会議長

石澤 一 明 様

氏 名 石 澤 一 明



平成29年度政務活動費に係る収支報告について

上ノ国町議会政務活動費の交付に関する条例第8条第1項に基づき、別紙のとおり平成29年度政務活動費収支報告書を提出します。

政務活動報告書

1 政務活動名

農業、漁業の振興先進地視察調査

2 政務活動内容

農業の六次産業化実践農業者を視察調査

- ① (株)六星 11月8日午前9時から石川県白山市にある農業法人、(株)六星に行き、沿革や経緯や現状などを視察調査

農業法人沿革

昭和52年 レタス農家5戸で生産組織を設立

昭和57年 組織の強化を図ることを目的に「農事組合法人六星生産組合」に改編

昭和57年 加工製造販売に取り組み開始、かきもちを販売開始

平成元年 (有)六星生産組合に改編、若手社員が入社し始める

平成7～8年 100ha規模のライスセンター建設、加工場、直売店を移転新築

平成14年 無農薬、無化学肥料栽培米を生産を開始

平成19年 (株)六星に改編、創業者から後継者へ承継

平成22年 直売店2点目「むつつぼし金沢百番街店」オープン

平成23年 直売店3点目「むつつぼし金沢長坂店」オープン

平成25年 「豆餅すずめ」「お福分け」をブランド化

平成26年 全国農業祭で内閣総理大臣賞を受賞

平成28年 直売店4点目「むつつぼし近江町市場店」オープン



注) 1 政務活動名には、実施した活動名を記載する。

(例～〇〇調査研究、〇〇研修、〇〇広報・広聴、〇〇会議など)

2 政務活動内容及び政務活動成果には、具体的な内容とその成果を記載する。

現在の経営規模は水田142, 7ha、畑5, 4haで、従業員は45名、パート81名で平均年齢は34才です。販売品目は無農薬野菜、無肥料栽培の米や米を利用した各種もち、お菓子、野菜を使った各種惣菜や弁当、野菜の直売やレストラン経営など、生産から加工、販売まで6次産業化しています。

総収入は11億円を超えるとのこと。

②(株)ぶった農産 10時30分からすぐ近くにある、野々市市の農業法人を視察調査、佛田社長から説明を受ける。

沿革、これまでの経緯

昭和51年 野々市水稻受託組合が組織され、佛田孝治が252aの農地を借入し、専業農家となる

昭和55年 金沢青かぶを利用して、かぶら寿しの加工販売を始める。乾燥能力12トン(日量)のミニライスセンターを建設。

昭和61年 第15回日本農業賞、第25回天皇杯受賞。直売店舗設置

昭和63年 農業生産法人(有)ぶった農産へ組織改編

平成2年 特別栽培米を始める。店舗の通年営業開始

平成3年 加工品の多品目化。民間局地気象情報の利用開始

平成9年 野菜の有機栽培の取り組む

平成13年 (株)ぶった農産に組織改編、社長に佛田利弘になる

平成26年 金沢駅百番街あんとへ出店、甘えびせんべい販売開始

平成28年 加賀玄米棒茶、加賀玄米煎茶を販売開始



(直売店陳列棚)

現在の経営規模は水田28ha、畑3haで従業員数は正社員11名、パート12名です。販売品目は特別栽培米の米や魚と野菜を使ったかぶら寿司、野菜を利用した各種漬物類です。売上高は1億2千万円です。

注) 1 政務活動名には、実施した活動名を記載する。

(例～〇〇調査研究、〇〇研修、〇〇広報・広聴、〇〇会議など)

2 政務活動内容及び政務活動成果には、具体的な内容とその成果を記載する。

漁業の種苗生産施設の視察調査

- ① 石川県水産総合センター（志賀事業所） 11月8日午後1時30分から同施設のヒラメ、クロダイ、アワビ、サザエ、アカガイの種苗生産施設を濱上所長の案内で視察調査をした。

施設の沿革

昭和63年 電源交付金で5.75億円で建設

平成元年 管理棟を0.33億円で整備

平成3年 取水管延長工事を0.39億円で整備

平成10年 温排水利用種苗生産施設を22.85億円で建設

平成12年 広報、研修棟を整備

この施設は、隣接する原子力発電所の冷却水を、最大750 t/h利用し自然海水と組み合わせている（発電所から放出される量の200分の1程度）ので、ポンプの維持費だけですむ。

現在原子力発電所は休止中で重油で水温を調整しているため、かなりのコスト高になるとの事です。



（ヒラメ生産棟）



- 注) 1 政務活動名には、実施した活動名を記載する。
（例～〇〇調査研究、〇〇研修、〇〇広報・広聴、〇〇会議など）
2 政務活動内容及び政務活動成果には、具体的な内容とその成果を記載する。

温排水利用の利点

ヒラメの産卵促進が可能～早期生産が可能になる

- ① 餌のアミエビが多い6月に放流できる……稚魚が餌に遭遇しやすい
- ② 天然ヒラメと同じ大型サイズで放流できる……天然ヒラメに食害されにくくなる
- ③ 夏の高温期の前に中間育成が終了する……中間育成がしやすくなる

センターでは県内外の漁業者などに種苗を供給している

センターの種苗配布価格は下記の通りとなっている

ヒラメ	平均全長 100mm	1尾 40円	放流用
ヒラメ	平均全長 80mm	1尾 80円	養殖用
クロダイ	平均全長 50mm	1尾 9円	放流用
クロダイ	平均全長 50mm	1尾 30円	養殖用
アワビ	殻長 16～20mm	1個 20円	放流用
アワビ	殻長 16～20mm	1個 30円	養殖用
サザエ	体重 2, 5g内外	1kg 4, 800円	放流用
アカガイ	殻長 2mm	1個 1円	

3 政務活動の成果

農業の6次産業化による振興事例では、農業者のモデルを視察調査したが、

- ① (株)六星は、白山市の農地の大半を借入、購入して地域農業を守っている。高齢化が進んで農業が崩壊していく中、若い世代の人が、農業に挑戦し、栽培する農産物をすべて加工販売している。150ha程の経営規模で総収入11億円を超えるのは、驚くべき数字である。これは、長年にわたって人材育成してきた成果であると感じた。
- ② (株)ぶった農産は経営規模30ha程で、どこにでもある規模の農家で、身の丈にあった経営の見本と思う。ここでは米の販売は精米と玄米煎茶だけで、野菜と魚を利用したかぶら寿しのほか、ほとんどが漬物類である。面積換算すると10a当たり40万円位になる。本町の農業者は、一部精米加工して販売しているが、ほとんどが原料を系統販売しているため、米で10a当たり10万円以下の売り上げの農家が多い。これからは、農産物に付加価値をつけて売る事を考えないと、町の目指している農業の振興は不可能と思われる。

③ 石川県水産総合センターは、電源交付金で建設されたため、設備が整っており、特に省力のための機械器具が整備されている。県の漁業者は、沖合漁業から養殖漁業に転換し、真剣に養殖に取り組んでおり、かなり成果が上がっているとの事。本町は限られた養殖漁業環境にあるが、栽培漁業センターや港湾、海洋牧場など、今ある施設の有効活用を図り、漁業振興を図ることが求められている。

注) 1 政務活動名には、実施した活動名を記載する。

(例～〇〇調査研究、〇〇研修、〇〇広報・広聴、〇〇会議など)

2 政務活動内容及び政務活動成果には、具体的な内容とその成果を記載する